

# 会 告

## 第 58 回 (2018 年度) 真空夏季大学のご案内

主催：公益社団法人日本表面真空学会

校長 間瀬一彦 (高エネルギー加速器研究機構)

協賛 (予定)：映像情報メディア学会, 応用物理学会, 化学工学会, 原子衝突学会, 触媒学会, 低温工学・超電導学会, 電気学会, 電子情報通信学会, 日本化学会, 日本加速器学会, 日本機械学会, 日本金属学会, 日本原子力学会, 日本材料学会, 日本質量分析学会, 日本真空工業会, 日本チタン協会, 日本鉄鋼協会, 日本半導体製造装置協会, 日本物理学会, 日本分析化学会, 日本放射光学会, 表面技術協会, 腐食防食学会, プラズマ・核融合学会

真空技術は、電子の発見や白熱電球・真空管の発明に始まる数多くの科学技術を生み出した基盤技術です。21 世紀の現代においても、ナノテクノロジーをはじめとするさまざまな研究開発のフロンティアで、真空技術の利用は、さらに拡大・深化しています。真空技術が存在しなければ、現代の科学技術の進展がストップすると言っても言い過ぎではありません。

日本表面真空学会では、真空を扱う方々が真空技術の基礎を理解し、装置を正しく運用し、さらには新たな技術の展開に対応できる能力を育むことを目的として、関連学協会の協賛のもとに講習会「真空夏季大学」を 1960 年以來、毎年開催してきました。

真空夏季大学は、真空工学の基礎となる事項を、受講生が適確に理解することに重点を置き、真空の科学技術において研究開発の実績を有する講師によるオリジナルなテキストをベースとした講義で構成されております。講師による一方的な講義に留まらず、実際に受講生一人一人が問題を解くことにより真空技術の基礎を理解し、真に活用できる能力を高めることを意図した演習を実施している点も大きな特長です。真空工学の基礎知識を確実なものとし、応用や実用問題にも対応できる力を備えた技術者・研究者を育成する絶好の機会と存じますので、是非、受講を検討下さいますようお願い申し上げます。受講された方には、日本表面真空学会より、修了証書を授与しております。

2013 年度より JVSJ 誌に真空科学入門の解説記事を掲載いたしております。著者は真空夏季大学の講師で、真空夏季大学の経験を背景として入門編に相応しい講座を目指しています。「気体分子運動論の基礎」、「真空と表面」、「排気と真空ポンプ」、「種々の真空計とそれぞれの計測原理」、「真空用材料」、「気体放出」、「成膜の基礎」、「プラズマの基礎」、「真空部品と可動機構」、「モンテカルロ法による真空配管に対する気体分子の通過確率計算」、「真空技術基礎演習講座 (1)」、「真空技術基礎演習講座 (2)」を掲載済みです。すべて真空夏季大学の基礎分野の講義に対応しています。もちろん解説記事単独でも役に立ちますが、真空夏季大学への繋がりを強く意識した構成です。真空夏季大学を受講される皆様には事前には是非ご一読いただきたいと考えています。

また、真空夏季大学に収めることのできない、より高度な応用技術に関しては、少数の受講生を対象として「真空夏季大学真空応用技術講座」を開催いたします。本年度は「プロセスプラズマの基礎」および「真空システム」、「圧力分布計算ソフトウェア Molflow+講習」の三講座を 8 月 31 日 (金) 13:00~16:15 に開催いたします。さらに 8 月 31 日 (金) 16:30~18:00 に、「非蒸発型ゲッターコーティング」講座を開催いたします。夏季大学を受講する方々にも、この応用技術講座の受講をご検討下さいますようお願い申し上げます。詳細は、後掲の「真空夏季大学真空応用技術講座のご案内」をご覧ください。

日 時：2018 年 8 月 28 日 (火) 12:00 ~ 31 日 (金) 12:00

会 場：つま恋リゾート 彩の郷

〒436-0011 静岡県掛川市満水 2000 TEL: 0537-24-1111 <http://www.hmi.co.jp/tsumagoi/>  
(JR 掛川駅から無料送迎バスがあります。)

講師とテーマ：

気体分子運動論入門.....	高エネルギー加速器研究機構	谷 本 育 律
希薄気体の流れ.....	高エネルギー加速器研究機構	末 次 祐 介
真空と表面.....	高エネルギー加速器研究機構	間 瀬 一 彦
真空計測.....	産業技術総合研究所つくば	吉 田 肇
真空ポンプと排気系.....	(株)大阪真空機器製作所	渡 辺 光 徳
画像でみる真空工学.....	東京学芸大学	松 本 益 明
真空用材料とガス放出.....	(株)アルバック	稲 吉 さかえ

264

真空部品と可動機構.....	物質・材料研究機構	板倉明子
成膜とプラズマの基礎.....	成蹊大学	中野武雄
演習.....	東京大学	池田暁彦
	東京大学	小倉正平
	日本原子力研究開発機構	神谷潤一郎
	キャノンアネルパ(株)	桑島淳宏
	高エネルギー加速器研究機構	柴田恭
	学習院大学	山川紘一郎
真空 Café (キャリア開発) .....	工学院大学	関口敦

- 参加費：**(1) 日本表面真空学会個人正会員 76,000 円 (受講料 37,000 円, 宿泊費 39,000 円)  
 (2) 日本表面真空学会法人正会員, 賛助会員, 維持会員に属する個人及び協賛団体会員 88,000 円 (受講料 49,000 円, 宿泊費 39,000 円)  
 (3) 日本表面真空学会学生会員 57,000 円 (受講料 18,000 円, 宿泊費 39,000 円)  
 (4) 一般 96,000 円 (受講料 57,000 円, 宿泊費 39,000 円)  
 ※受講料にはテキスト, パワーポイント配布資料代・消費税を含みます。宿泊費には3泊4日食費等, 消費税を含みます。部屋の割り振りは, 事務局一任とさせていただきます。ただし, 特別の理由がある場合はご連絡下さい。

**申込方法：**Web ページ <http://www.jvss.jp/> よりお申し込み下さい。

申込受付完了後, 請求書を発送しますので, お支払い手続きをお願いします。

本申込時にご登録いただいた個人情報は, 公益社団法人日本表面真空学会が収集し, 真空夏季大学の実施運営に利用します。本申込時にご登録いただいたアドレス宛に今後日本表面真空学会が主催する講習会, 真空技術者資格認定試験のご案内を送信させていただくことがあります。

なお, 「受講者の都合による取り消し及び不参加」の場合, 参加費の払い戻しはいたしません。ただし, 参加者の変更は, 差し支えありません。

**申込期間：**2018年5月7日(月)～7月27日(金)

**定員：**100名(先着順にて定員に達し次第締め切ります。)

**問合せ先：**公益社団法人日本表面真空学会 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル5階

TEL 03-6801-6264 FAX 03-3812-2897 E-mail: ofc-vs@vacuum-jp.org

**その他：**・一般参加または協賛団体会員と日本表面真空学会個人正会員との会費の差額 20,000 円または 12,000 円は日本表面真空学会個人正会員の年会費 (10,000 円) 以上に相当します。真空夏季大学申込と同時の入会申込でも会員の参加費が適用されます。入会を希望される方は, 前記申込先に記載のホームページより入会申込手続きをお願いします。

・各都道府県には「人材開発支援助成金」制度があり条件により受講料が給付の対象となります。

## 講義の概要：

### 気体分子運動論入門 (谷本育律)

「気体分子運動論」は, 4日間の真空夏季大学を通して学ぶ「真空工学」の基礎となる理論である。例えば, 希薄気体の性質をうまく利用して真空ポンプや真空計を正しく動作させるためには, ミクロな視点で気体分子の振る舞いをよく理解しておくことが必要となる。この講義では, まず圧力の定義や単位系, 気体の法則など, 気体の巨視的性質について復習する。その後に, 気体分子の運動がもたらす圧力, 気体分子の速度分布則, 壁への入射頻度, 平均自由行程, 熱や運動量に関する輸送現象など, 気体分子運動論から真空工学に応用されているテーマを重点的に学ぶ。また, コンダクタンスや排気速度といった真空工学に特有な量や用語についても解説する。

### 希薄気体の流れ（末次祐介）

真空装置の排気特性を理解するためには気体の流れを知ることが重要である。排気過程では真空容器内の気体が導管を通して真空ポンプに流れるが、気体分子の相互衝突が無視できるような高真空領域では、気体の流れは個々の分子の拡散現象として特徴づけられる。本講義課目では、この拡散現象として扱われる希薄気体の流れ（分子流）を圧力の高い領域の流れ（粘性流）と対比させて解説し、気体の流量を規定する要因、特に導管等のコンダクタンスについて詳細に説明する。さらに、真空システムにおける排気過程を例題を通して解説し、具体的な問題についての考え方を理解してもらう。

### 真空と表面（間瀬一彦）

気体分子は1気圧では1 cm<sup>3</sup>中におよそ10<sup>19</sup>個もあり、互いに衝突しながら飛び回っているが、圧力が低くなるに従い、気体分子同士の衝突は減少し、真空容器の内壁表面との衝突が真空の特性を決めることとなる。講義では、表面の効果が現れる条件を説明し、次いで、気体分子と固体表面との各種の相互作用について解説する。すなわち、気体分子の固体表面での反射や散乱、表面への気体分子の吸着とその逆過程の脱離、エネルギーのやりとりとしての熱的適応などについて解説する。また、清浄な表面を保つための超高真空技術について紹介する。

### 真空計測（吉田肇）

真空計測は、大気圧から10<sup>-10</sup> Pa~10<sup>-11</sup> Paまで、15桁以上にわたる圧力範囲を計測する技術である。圧力範囲に応じて、様々な原理の真空計が用いられており、それぞれの真空計の特性を理解して使用することが重要である。本講義では、真空計測に関わる基礎的な知識に始まり、種々の真空計の原理、流量制御と流量計、真空計と標準リークの校正、真空計測に影響を及ぼす諸要因、真空計測における定量測定と不確かさの考え方について説明する。真空計は、本当は何を測定していて、それはどのようにして圧力に関連付けられているかを理解すると共に、圧力表示値にはどの程度の信頼性があるかについての考え方を説明する。

### 真空ポンプと排気系（渡辺光徳）

真空ポンプは、真空を作りだし、維持する最も基本的なコンポーネントである。機械的体積変形により排気を行うタイプ、液体を作動液として用いるタイプ、あるいは、壁面での吸着を利用するタイプなど多くの原理に基づく真空ポンプが発明・製作され、使用されている。この講義では、これらの真空ポンプのうち、現在広く使用されているタイプについて、動作原理、その特徴や使用上の注意点などを分かりやすく講義する。また、最近、半導体、電子機器分野で利用の機会が飛躍的に増大しているオイルフリーの排気システムや極限的な真空を目指す超高真空装置についても、紹介する。

### 画像でみる真空工学（松本益明）

真空装置内の気体分子の運動や質量分析計内でのイオン軌道などを、モンテカルロシミュレーションや数値解法などの方法で解析し、動画化した結果を鑑賞する。このことにより、真空装置内の分子やイオンの振る舞いを画像から直観的に理解してもらうことを目的としている。講義では、解析手法を概説するとともに、導管の通過確率、圧力分布、排気速度測定用テストドーム、熱遷移、四極子型質量分析計などに関連したシミュレーションの結果を動画として表示し、それぞれの結果や現象について解説する。

### 真空用材料とガス放出（稲吉さかえ）

真空装置には、金属、ガラス、セラミックス、ポリマー（ゴムやプラスチック）など多種多様な材料が用いられている。これらの材料は、それぞれ装置の使用目的に応じてコスト、入手性、機械的、物理的、化学的特性などの他に、真空排気のし易さ、真空度（圧力）と真空の質（汚れ）の維持なども考慮して、選ばれる。本講義では、まず、真空用材料の選択基準について解説し、ついで、真空装置設計に必要な真空関連特性について説明し、さらに、真空用材料として、金属材料（ステンレス鋼、アルミニウム合金、その他）を主体に、ついで、ガラス、炭素、セラミックス、およびポリマーを紹介し、最後に真空用材料からのガス放出特性について解説する。

**真空部品と可動機構（板倉明子）**

真空部品の講義では、真空技術の基本である真空シール（気密シール）の構造と、各種の接合技術を論じたあと、それらのシール技術の応用として、各種の部品を解説していく。

そのため、ここでいう「真空部品」とは大気と真空の境界で使用される部品に限定している。個々の部品についての解説は、超高真空用と、それ以上の圧力領域で使用するものと、分けて行うことを基本としている。これは真空領域によって、使用される素材や部品の構造が異なるためである。また、プロセス装置に不可欠な圧力制御機構についても説明する。可動機構の項目では、真空中で動かせる機構を組み込むに当たって、注意すべき点を解説する。真空中における摩擦係数の増大の問題から、それを解決する潤滑材の説明、摩擦を完全になくした浮上搬送機構などの説明をする。

**成膜とプラズマの基礎（中野武雄）**

真空工学の重要な応用である成膜とプラズマについて、基礎的な解説をする。真空蒸着法の原理とプラズマの発生法についてそれぞれ紹介したのち、プラズマを用いた成膜手法として、スパッタリング法についても触れる。基礎科目で学習した平均自由行程・容器壁面への入射頻度・付着確率といった概念が、実際の成膜過程にどのように影響するかを解説する。具体的には、得られる薄膜への残留ガス成分の混入、堆積粒子のエネルギーの違いによって生じる薄膜構造や諸物性の変化、などについて学ぶ。なおプラズマについては、「応用講座」が準備されているので、より詳細かつ広汎な内容を学びたい場合には、そちらへの参加も推奨する。

**演習（池田暁彦，小倉正平，神谷潤一郎，桑島淳宏，柴田恭，山川紘一郎）**

受講生を20名程度のグループに分け、各人が自ら演習問題を解き、講師の説明を受けることによって、真空科学・工学に必要な概念の理解を深めることを目標とする。具体的には、配管のコンダクタンスと圧力分布、真空計測の原理と実際、真空材料のガス放出、真空装置の排気過程、固体表面の吸着・脱離、平衡蒸気圧など、実際の真空装置の製作と運用において基礎となる事項について問題を解いていく。演習Ⅰでは、真空科学・工学において良く使用される公式などを使った計算を通して、単位や数量的な取扱いに慣れる。演習Ⅱ、Ⅲでは、真空科学・工学の基本的な問題を通して、問題の考え方、講義との関連、解答の導き方などを理解する。最終日の達成度テストにより、習熟度を確認する。

**講師控室における質問受け付け**

1日目、2日目、3日目の21:00~24:00は講師控室にて質問などを受け付ける。また、演習会場は24時まで自習に利用できる。

**真空 Café（キャリア開発）（関口敦）**

World Café方式の特別演習を行う。World CaféはJuanita BrownとDavid Isaacsによって、1995年に開発・提唱された「対話」による「気づき」の支援の手法である。夏季大学で学んだ知識を自分の中で咀嚼すること、多彩な参加者間で知識の共有化をはかり深めることを目的とする。種々の経験を持った参加者間で「真空」をテーマにした「対話」を実施する。この対話の経験から「気づき」を得て、自分自身の仕事の中に取り込むきっかけを支援する。名刺（20枚程度）と筆記用具を持参すること。

**交流会**

1日目の18:05~18:30に交流会を行う。名刺（20枚程度）を持参すること。